



コスモス

文月
No.4

【知】進んで学びよく考える子 【徳】明るく思いやりのある子 【体】たくましくねばり強い子

子どもを育てる

校長 荻野 浩

44年前、「人の命は地球より重い。」と述べたのは、当時の首相・福田赳夫氏でした。人が傷つき、人の命が危険にさらされる現状を嘆き、心の底から出てきた言葉だと思いません。いつの時代でも、子どもたちは将来の日本の担い手であり、20年後30年後の地域を支える貴重な人材です。どの子にも、夢があり輝く未来があります。これからも、どの子にも夢を叶えさせ、光輝く未来を見ることが出来る世の中であって欲しいと、強く願っています。

昔から、「子は、我が家の宝」です。そして、今でもこの思いは変わりません。だからこそ、親[大人]、教師の存在は、大きな役割を担っています。我が子に、学校の子どもたちに、地域の子どもたちに、学力をしっかり身につけさせ、心も体も豊かな子に育て、礼節をわきまえ、人として立派に自立できるよう育てることが、我々、親[大人]の責任であり、教師としての責務だと考えています。

私は、これまでの教員生活の中で、何百人もの子どもたちを担任し、共に学校生活を過ごしてきました。その間、クラスの子どもたちと衝突したり、逆に励まされたりしたことも数多くありました。毎日が試行錯誤の連続でした。子どもたちからの「今日、学校楽しかったよ。」「勉強(運動)が、できるようになって嬉しかった。」「友だちと仲良くできてよかった。」等の一言が、教師としての喜びとなり、明日への糧となっていました。

しかし、我が子の子育てとなると難しい限りです。多くの指導体験があるも関わらず、我が子にすぽっと当てはまるものが、なかなか見つかりません。我が子の姿や行動を見てみると、自分も子どもの頃は、同じようだったのかなと、今になって親の苦勞を感じています。そんな時、ドロシー・ロー・ノルトさん(米)の『子は親の鏡』を思い出します。

子どもを育てるのは難しい。でも、とてもやりがいのある役割(仕事)です。明日からも試行錯誤しながら、子どもたちのために、我が子のために、しっかりと自分の役割を果たしていきたいと思う今日この頃です。

「子は親の鏡」(ドロシー・ロー・ノルト著)

- ・けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
- ・とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
- ・不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
- ・「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
- ・子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
- ・親が他人をうらやんでばかりいると、子どもも人をうらやむようになる
- ・叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
- ・励ましてあげれば、子どもは、自信をもつようになる
- ・広い心で接すれば、キレる子にならない
- ・褒めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
- ・愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
- ・認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
- ・見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
- ・分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ